

# 人権なら

2022年7月1日

第139号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

## 第22期事業計画を決定

### NPOなら人権情報センターが通常総会を開催

NPOなら人権情報センターは6月18日、三宅町あざさ苑で第22期通常総会を開いた＝写真。各支局の会員らが出席。事業計画などを協議、決定した。



冒頭、全国水平社創立100年を記念して「水平社宣言」が読み上げられた。また、2月に逝去された中川俊之・理事を追悼し、全員で黙とうを行った。

古川友則・理事長があいさつ。現在、日本の政治情勢は、ロシアのウクライナ侵攻を受けて、台湾有事や北朝鮮のミサイル攻撃に対する安全保障問題にすり替えられている。国民の生活をかえりみず、防衛費の倍増や核共有発言など、戦争準備に前のめりした扇動が行われている。こうした動きを危惧するとともに、戦争や暴力が差別や排外主義を激化させるものであることを肝に銘じ、強く反対していきたい、と述べた。

### 「差別と人権」研究集会の成功を確認

2021年度事業報告、同会計報告、同会計監査がそれぞれ提案、審議され、承認された。引き続き、2022年度事業計画、同予算計画、2年ごとの役員改選が提案され、質疑のあと、承認。総会を終えた。

総会では、昨年の「差別と人権」研究集会がコロナ禍のため、急きょ、中止を余儀なくされたことから、9月3日に予定している第13回奈良県「差別と人権」研究集会はぜひとも成功させようと確認し合った。

総会終了後、第26期参院選県選挙区に立候補を予定している猪奥(いおく)美里さんが駆けつけ、あい

さつ。政治への熱い思いを語り、支援を求めた。

\*\*\*\*\*

## グループホーム再編に反対

### 緊急院内集会にリモート配信で参加も

グループホームの再編に反対する緊急院内集会が5月18日、衆院第2議員会館であった。同緊急行動ネットワークが主催した。集会の模様はリモート配信され、ひまわりのメンバーもMiiMoに集まり、見守った。



集会は富田忠一・ちいろば会常務理事が司会。林叔美さん(社会福祉法人創思苑)が開会あいさつ。

### 当事者が「自分のことは自分で決めたい」と

厚労省担当課の河村室長が説明を行い、それを受けて「当事者・現場の声」として関係者の発言が続いた。社会福祉法人ひまわりの西本春夫さんと阪本理恵さんは「グループホームは訓練の場ではない。生活の場だ」「自分のことは自分で決めたい」「通過型グループホームはグループホームとは言えない」などと声を上げた。



各党の国会議員も支援の発言。ひまわりの渡辺哲久さんは、グループホーム再編問題の背景と課題について発言した。このあと、賛同者・個人・団体からの連帯アピールを受けた。

ネットワークが呼びかけた再編反対署名活動では、全国から68,000筆を超える署名が集まっている。

## からだも心もスッキリに

### 5月のみんなであそぼう会はドッジボール遊び

あじさいの花が雨にぬれ、ひと雨ごとに美しさをま  
す季節になりました。

雨の日だから楽し  
めるしとしと降る雨、  
ザーザーと降る雨  
の音、雨の匂い。  
そんな雨の風景の  
なか、自分だけの  
発見があるかも…!!



5月20日。午後6時から、山本宅で「おぼっち食堂」  
を開きました。参加者は子ども9人、大人2人でした。  
今回は6年生と、その兄弟を中心に集まりました。

この日のメニューはハヤシライス、長ネギのスープ、  
ポテトサラダ、デザートでした。デザートは市販のプッ  
チンプリンに果物やアイスクリーム、生クリームをのせて  
つくるプリンアラモードです。

### 9人の子どもたちが「おぼっち食堂」に参加

毎回、参加してくれる子どもスタッフのSさんは、食  
堂の段取りや準備をよくわかって  
いてくれています。初めて参加し  
てくれた子に対する気遣いや、気  
配りもあって、雰囲気づくりが上  
手です。なくてはならないスタッフです。



短い時間ですが、食堂における流れの説明を掲示  
し、片づけも各自でしてもらいます。子どもたちからは  
「ごちそうさまでした。家とは違う味だったけど、おいし  
かった」「満足です」と、丁寧な感想がありました。

### 食事のあと、ゲームでリラックスした時を過ごす

食事のあとは、ゲーム三昧となりました。それぞれリ  
ラックスした時間を過ごし、終わる時間も守れました。  
短い時間であっても、それぞれがちょっといい時間にな  
れれば…と思っています。

### みんなでやりたいことをアンケートしてすすめる

5月28日。晴天。午後1時30分から、三宅町東屏  
風体育館で、みんなであそぼう会を開催しました。

あそぼう会の内容は、事前にみんなでやりたいこと  
のアンケートをとって、その中からすすめていくように  
しています。

アンケートの回答は、ゲームなどの少人数であそぶ  
部屋遊びが多かったのですが、  
自然体験、ドッジボール、かく  
れんぼ、おにごっこなどの要望  
もありました。外に出て身体を  
動かしたい、みんなであそび  
たい気持ちを感じられました。みんなであそぶことの  
面白さを分かち合えるといいなあ、と思います。



### 体育館に響き渡る子どもたちの元気な声

この日は、子どもたちのリクエストに応じてドッジボ  
ールであそびま  
した=写真。子  
ども20人、大人  
7人の参加があ  
りました。初めて  
お借りした東屏



風体育館は運動をするのに、とても使いやすい、広々  
とした気持ちのいい体育館です。

あそぼう会の流れを説明したあと、チーム編成など  
は子どもたちで決めました。少し緊張していた子ども  
たちも少しずつにぎやかになり、体育館は子どもたち  
の元気な声が響き渡りました。

その声を聞いて、のぞいてくれた近所の子どもも参  
加してくれました。未だにコロナ禍ではありますが、少  
しずつ日常が戻るなか、大人も子どももいっしょに汗  
をかき、閉塞感をふっとばすことができ、笑顔のあふ  
れるスッキリした一日となりました。

「次はいつ？」の音がうれしく、明日を生きる子ども  
たちにたくさんの元気をもらうことができました。

(子どもの居場所づくりをつくろう会・山本薫)

## 天王寺夜間中学を残せ

### 「母校を守ろう！」と天王寺夜中同窓会総会

天王寺中学校夜間学級の第51・52・53回同窓会総会が6月5日、同校であった。前回の集いは2019年6月2日、「50年のあゆみー未来への一步」をテーマに盛大に催された＝写真。だが、今回は、会場の空気は重たく、緊張感が漂う集いだった。教室の前には「母校を守ろう！」と大書されたポスターが貼られていた。



総会は、会長があいさつ。「コロナ禍で活動も制限されるなか、今、学校の廃校・移転が進められている。みなさんの力をお借りしたい」と訴えた。副校長があいさつ。「昨年秋から大きな問題を抱えてきた。皆様のご意見を校長や教育委員会にお伝えする」と述べた。このあと、新役員・監事の紹介、会計報告・監査報告、卒業生の紹介が続き、活動報告があった。

### 同窓会と生徒会が街頭などで反対署名活動

同窓会会員は昨年10月23日、「2年後に天王寺・文の里の夜間中学が廃校になる」と知らされた。驚きと怒りでいっぱいになり、「母校を守ろう」と決意する。



11月には、「同窓会通信」で署名のお願いをすると決定。天王寺夜間中学の生徒会とも話し合った。12月9日には、校長先生と話し合い。「夜間だからこそ残さなければならない」と訴えた。12月18日には、天王寺駅、天王寺公園周辺で「連合生徒会」呼びかけの街頭行動に参加し、署名を集めた。

年が明けた1月21日、「琉球人遺骨返還訴訟大阪集会」に沖縄から来阪した金城実さんと合流し、夜間

中学廃校反対を訴え、署名を集めた。2月16日に校長と話し合い。生徒との懇談や入学受付の場で校長が「2年後に廃校になる」「日本語を話せない人は入学できない」と述べた発言は問題だと訴えた。

### 44,000筆もの署名を市教委に提出

全国から集まった44,000筆と団体署名を2月24日、教育委員会に提出。生徒・卒業生が思いを訴えた。

3月6日の「戦争あかん！ロックアクション」や、3月8日の「国際女性デー」にも参加。廃校問題を訴えた。5月13日には、市教育委員会と話し合うなど、この間の8ヵ月に及ぶ活動を報告した。

このあと、意見交換。ある役員はチラシを地域に配布し、署名のお願いに歩いたことや、「なぜ夜間中学を守ろうとしているのか」を「卒業生の主張」として冊子にまとめたので読んで欲しい、と力を込めて話した。

参加した生徒は「まだまだ私たちに勉強を続ける時間をください」「遠くになると通えません」。卒業生は「なぜ夜間中学にたどり着いたのか」「そこで過ごした時間がなぜ大切だったのか」と切々と語った。

### 学ぶ権利と生きる希望を奪う夜中の統廃合

高野雅夫さんは静かに怒りを噛みしめ話した＝写真。「新聞記事を見たとき、再び死刑宣告を受けた衝撃だった」「悔しくて、この現状を覆せないかと考え続けている」と語った。マイクを繋ぎ語られる一人ひとりの発言に胸が熱くなった。



大阪市が画策する「天王寺と文の里夜間中学の統廃合」は、浪速区日本橋東にある日東小学校跡地に「不登校特例校」を新設し、その中に夜間中学を加えるというものだ。

これは、天王寺夜間中学の50数年の歩みと、培ってきた教育を完全に無視したものだ。学んでいる人、これから学びたい人の権利や希望を奪うものである。夜間中学でようやく「学ぶ・生きる」を取り戻すことができている人たちを切り捨てる反教育的な蛮行である。

## 佐渡さんが入所者の作品朗読

### 架け橋の会がハンセン病問題を学ぶ集い

「架け橋 長島・奈良を結ぶ会」が6月25日、「第11回ハンセン病問題を学ぶ集い」を橿原市内で開いた。70余人が参加。熱気のもった集いとなった＝写真。



朗読ボランティアの佐渡娑智子(さわたりさちこ)さんが「踏みにじられた病を生きる」のテーマで講演＝写真。佐渡さんは1933年生まれ。戦後、ライトハウスで「音訳」を学ぶ。最初の音訳録音は栗生楽泉園入所者の加藤三郎さんのエッセイ「草津の墓碑銘」。

それがきっかけとなって、同入所者自治会の機関紙「高原」の音訳を10数年間続けた。入所者の過酷な状況、視覚障害者の厳しい差別の現実に向き合いながら、今も全国の療養所で朗読活動をしている。

### 「人間回復を目指した文学」「命の文学」を心に

「ハンセン病文学」については、「人間回復を目指し

#### 編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

物価の高騰が家計を直撃している。円安や資源高が影響する。ウクライナ情勢も響く。物価は上がるが、賃金は上がらない。年金も減額だ。庶民の所得は減る一方で、生活苦は一層強まる。でも、日銀総裁は「家計の値上げ許容度は高まっている」。元首相は「日銀は政府の子会社」だと。現首相は「成長重視」で分配は棚上げ。結局、庶民を犠牲にした経済政策が続くことに。軍事費の倍増を目論むが、その財源は参院選を控え触れない。選挙に勝てば「黄金の3年間」。この間に「数の力」で改憲、増税、社会保障費の削減を強行する魂胆だ。今回の参院選。よく考えて投票を。

た文学」「社会から隔離された苦しみ・悲しみ・怒りから湧き出た患者の文学」「命の文学」という銚(こだま)雄二さんの教えを心に刻んできた。

佐渡さんは「何より作品を聞いてもらうのが一番」だとして、明石海人(長島愛生園)と沢田五郎(栗生楽泉園)の短歌、村越化石(栗生楽泉園)の俳句、中山秋夫(邑久光明園)の川柳、銚雄二(多摩全生園—栗生楽泉園)と近藤宏一(長島愛生園)の詩、加藤三郎(栗生楽泉園)のエッセイを朗読した。



### 桜井小が疑問を交流する授業実践を報告

このあと、「自分も差別しないと決めれた—中尾伸治さんとの出会いから—」と題した桜井市立大福小学校の授業実践報告があった。

大福小では、「出会う」ことの大切さを大事にすること、子ども同士の疑問や考えをつなぐこと、一人ひとり違った感じ方や考え方に気づかせ、より深く考えるというこだわりをもって取り組んでいる。

まず、ハンセン病問題を描いたアニメを視聴し、ハンセン病に対する差別や国の隔離政策の実態を学び、みんなで疑問を交流する。次いで自主公開研で教材「心の架け橋」を読んで気づいたことを話し合う。疑問や感想を交流し、中尾さんとのリモートでの出会いのあと、みんなで振り返りの話し合い。そのあと、中尾さんにお礼の手紙を書くという流れで取り組む。

こうした取り組みで、子どもたちは差別や偏見に気づき、疑問を交わすことができるようになり、少なからぬ確かな変化が生じている、とその成果を強調した。

#### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター  
〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/